

山口県大学 ML (Museum・Library) 連携事業報告

平成27年度 展示テーマ『つなぐ』



山口県大学 ML (Museum・Library) 連携事業報告

平成 27 年度 展示テーマ『つなぐ』

事業の経緯と経過

参加館が共通テーマに沿って各大学や館の特色を生かした学術資料または研究成果の展示を開催するという現行体制での 3 年目となった平成 27 年度は、新たに 1 大学 2 館 (山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館、山口大学工学部図書館) が参加することとなり、12 大学 17 館 (下記「事業の実施体制」参照) での事業開催となった。

平成 27 年 6 月 15 日に宇部フロンティア大学短期大学部図書館にて宇部地区の、6 月 18 日に山口大学総合図書館にて山口・萩以東地区の、翌 19 日には下関短期大学図書館にて下関地区の事業説明会を開催し、

- ◎展示の共通テーマを『つなぐ』とする
- ◎事業期間は 10 月から翌年 1 月までとし、各館 2 ヶ月以上は展示開催する
- ◎事務局下関地区担当を水産大学校図書館、宇部地区担当を山口大学医学部図書館とする
- ◎見学者が効率よく各館を回れるよう、各地区で開催期間を調整する
- ◎スタンプラリーを実施し、4 館見学でコットンバッグ、8 館見学で手ぬぐいをプレゼントするが、今年度は館によりボーナスポイントを付けるなどが決定された。

以降、各館の展示準備とともにポスター、スタンプラリーカード (チラシ) などを作成し、広報物配付後は事務局とともに各館による地域広報活動が進められた。

平成 27 年 10 月、予定通り「山口県大学 ML 連携特別展」は開幕し、期間中計測されただけ (図書館での開催は見学者を正確にカウントすることが困難) でもおよそ 1,200 名もの方々に見学いただいた。スタンプラリーも最終的に 4 館達成者 45 名、8 館達成者 9 名、全館達成 2 名に達した。

次頁より参加各館の展示内容の紹介と実施成果を報告するが、事業終了後の平成 28 年 2 月 24 日に山口大学総合図書館において事業報告会が開催され、各館の報告と今後の提案がなされ、次年度以降の活動などが検討されるとともに、次年度の事務局体制が報告された。

当事業が抱える大きな課題として、広報の強化が挙げられるが、参加館からは「地域のコミュニティ FM での紹介」「大学の同窓会への呼びかけ」「近隣のコンビニエンスストア等にポスター掲示を依頼」「地域に加えて、学内広報も強化すべき」などの意見が出された。

また、事業実施にあたり参加費の導入および外部資金獲得の可否について検討され、まずは実施経費の算出が必要であることから、各館の事業実施経費を調査することの他、未参加館への参加呼びかけを継続的に実施する事も確認された。

当事業は、大学広報的な要素を含みつつも本来的には大学博物館・図書館の存在意義を学内外に問いかけるとともに、大学における自館の役割を再確認し、館に集積される各大学の特色ある学術資料・研究成果を展示として表現する事ことにより地域社会に寄与することにある。過去の歴史において「文化の切り捨て」は幾度となく行われてきたが、文化施設が危機感をもって様々な局面に備えておく時代が到来していることは確かである。真の連携とは何かを模索しつつ、事業を展開すべきであろう。

事業の実施体制

・主催

山口県大学 ML 連携事業事務局 (山口大学情報環境部学術情報基盤整備室内)
代表 吉光紀行 (山口大学情報環境部学術情報基盤整備室 室長)
企画担当 横山成己 (山口大学埋蔵文化財資料館 助教)
事務担当 川上 誠 (山口大学情報環境部資料契約係 図書系職員)
※平成 27 年 6 月まで
下関地区担当 水産大学校図書館
宇部地区担当 山口大学医学部図書館

・参加館

岩国短期大学図書館 宇部フロンティア大学短期大学部図書館
宇部フロンティア大学附属図書館 至誠館大学附属図書館
下関市立大学附属図書館 下関短期大学図書館 水産大学校図書館
東亜大学附属図書館 梅光学院大学図書館 梅光学院大学博物館
山口県立大学附属図書館 山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館
山口大学医学部図書館 山口大学工学部図書館 山口大学総合図書館
山口大学埋蔵文化財資料館 山口東京理科大学図書館 (50 音順)

・共催

大学コンソーシアムやまぐち 山口県大学図書館協議会

・後援

山口県図書館協会 山口県博物館協会 大学博物館等協議会



展示広報用ポスター



事前説明会 (宇部地区) の模様
(2015 年 6 月 15 日開催)



山口県大学 ML 連携事業 web



下関市立大学 附属図書館

『ひとと風土をつなぐ食』

【展示内容】

長府毛利藩城下町や江戸時代の捕鯨の様子を描いたパネルを展示しました。また、イワシクジラの頭部骨格標本および捕鯨母船「第二図南丸」の模型の展示も行い、閲覧をご希望の方に、本学内に常設されているくじら資料室をご紹介します。

【主な展示品】

- ・捕鯨繪巻 鯨類図写 複写パネル
- ・長府毛利藩城下町繪圖 複写パネル
- ・イワシクジラ頭部骨格標本
- ・捕鯨工船第二図南丸（旧松島丸）断面模型

【観覧者数】

24名

【関連事業】

- ・第8回鯨資料室シンポジウム

【成果】

観覧者数のうち7割が一般利用者であることから、学外者が大学図書館を利用する機会づけになったと思います。

また、アンケートにおいて、印象に残った展示品として「ふぐ・鯨料理サンプル」と「古地図」が掲げられており、地域に根差した展示が好評である結果が得られました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

別棟の鯨資料室見学へと誘導するために、展示の工夫を施したいと思います。

住 所：〒751-8510 下関市大学町 2-1-1
電 話：083-252-1211
e-mail：library@shimonoseki-cu.ac.jp
http://www.shimonoseki-cu.ac.jp/library/
●開催期間：10月2日（金）～11月30日（月）
●開館時間：月～金 9時～21時30分
土・日 9時30分～17時
●休館日：祝日・館内整理日・大学祭期間



展示の様様



展示の様様



下関短期大学 図書館

『戦後 70 年 一下関と女子教育の歩みをつなぐ』

【展示内容】

第二次世界大戦が終結してから今年で70年が過ぎました。その間、女性は男性と法的に平等となり、女性のライフスタイルも大きく変化しました。本展示では、下関の歴史と本学が行ってきた女子教育の歩みを振り返ることによって、これからの未来づくりに向けた教育のあり方を考えたいと考えました。

【主な展示品】

- ・河野高等女学院 卒業アルバム「想ひ出」昭和11年3月
- ・指揮連絡機「愛国第三千六百三（下関河野女学校）」プロペラ 昭和19年製造
- ・河野学園「裁縫の葉」(上)(下) 昭和43年

【観覧者数】

アンケート回答者13名

【関連事業】

- ・ギャラリートーク「戦後の女子教育と下関短期大学」
11月8日（日）講師：河野光子先生
- ・梅光学院大学 博物館学芸員資格取得希望学生による見学会
12月2日（水）佐藤睦子先生引率

【成果】

同窓会桜山会に働きかけ、「母校通信」にてML連携特別展と上記ギャラリートークのお知らせを行い、卒業生にも広報を行うことができました。

学内施設「河野タカ記念室」（必要な時のみ開室）の資料を図書館で展示することにより、学内連携・学校史に関する史資料の保存・管理のあり方について、学内で再考するきっかけとなりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

ギャラリートーク、イベント企画の継続・実施や、学生にとって、より身近に感じられるテーマでの企画・展示、広報の充実（PR誌を含めた広報再考の必要性）を感じます。

住 所：〒750-8508 下関市桜山町 1-1
電 話：083-223-5340
e-mail：lib@shimonoseki-jc.ac.jp
http://www.shimonoseki-jc.ac.jp/33_library/index.html
●開催期間：10月1日（木）～1月29日（金）
●開館時間：9時～17時
●休館日：土・日・祝日
※11月7日（土）・8日（日）は臨時開館



展示の様様



観覧風景



東亜大学 附属図書館

『陸軍看護兵 「緒方惟芳」が撮った日露戦争』

【展示内容】

日露戦争の報道写真は多くありますが、兵士自身が撮影したものは極めて珍しいといえます。陸軍看護兵であった緒方惟芳（おがた ただよし／萩出身）は、明治37（1904）年8月に陸軍第五師団の補充兵として広島宇品港出発しました。明治39年1月にふたたび帰還をはたすまで、最前線の野戦病院で日々の日記をつづり、写真を撮り続けました。本年は、アジア・太平洋戦争の敗戦70年目を迎え再び、戦争とは何かが問われています。本展では、一看護兵であった惟芳が撮影した日露戦争の写真を通して戦争とは何かを考えると同時に、戦争の体験を「つなぐ」ことの大切さを知る機会となることを目的としました。

【主な展示品】

・緒方が従軍中に非公式で撮影した写真40枚、従軍日記2冊と軍隊手帳

【観覧者数】

不明（記名者66名）

【関連事業】

・展示説明会3回開催

【成果】

参加2回目ですが、今回は紀要論文をもとに構成し本学の「博物館学芸員課程」に在籍する学生を中心に、実習を兼ねた展示を行いました。「つなぐ」というテーマのもと、本学の行う教育・研究の一端について少しでもご理解をいただくことができたのは幸いでした。

なお、山口県大学リポジトリ「維新」における当該論文の閲覧状況（ダウンロード回数）は、公開した2014-12から10月末までは239件でしたが、開催2ヵ月後の12月末までは9,320件と爆発的に増加したことも付け加えておきます。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

「連携展」として毎年継続開催を前提とすると、当図書館の所蔵を元に「テーマに沿った魅力ある展示」がどこまでできるのか、展示スペースに制約のあるなかで展示方法をどうするかが本学の課題として見えてきましたが、テーマに沿った内容を掘り出して連携事業により本学への関心を高めていけるようにと考えています。

住 所：〒751-8503 山口県下関市一の宮学園町2-1
電 話：083-257-5111
e-mail：tosyo@tousa-u.ac.jp
http://www.tousa-u.ac.jp/
●開催期間：11月4日（水）～12月22日（火）
●開館時間：9時～17時
●休館日：日曜日・祝日・土曜日



展示の模様



展示説明会風景



水産大学校 図書館

『我が国水産業の生産技術と豊かな 水産資源を将来世代に「つなぐ」人材育成』

【展示内容】

かつて世界一の漁獲量を誇った我が国水産業は、我が国周辺の資源状況の悪化や、各国の200海里水域設定等厳しい国際規制の影響により、近年はピーク時の半分以下の漁獲に落ち込んでいます。しかしながら、世界的には、水産物の消費は増加傾向にあることから、水産物の生産技術や生産能力の維持・向上はもとより、科学的根拠に基づく水産資源の管理を通じた適切な資源管理の取組がますます重要となっています。今回は、我が国水産業の生産技術の維持・向上と水産資源の持続的利用に向け、本校で取り組んでいる人材育成、調査・研究の一端を紹介しました。

【主な展示品】

・洋式帆船のガレオン船（シップ型）

【観覧者数】

67名

【関連事業】

なし

【成果】

「つなぐ」をテーマとして、海洋機械工学・生物生産の2学科において行われている研究の成果の一端をパネルの展示にて紹介しました。また、元造船技師斎藤氏の手になるオリジナル帆船模型5隻展示しました。公開講座・保護者懇談会・大学祭が同日開催された10月10日（土）には外部に向けて臨時開館を行い、保護者の方々や公開講座の参加者など、多くの訪問者に観覧していただくことができました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

地の利の悪さが災いしてか、今年度もあまり観覧者を得ることができませんでしたが、中には毎年必ず来館してくださる方もいらっしゃいました。

住 所：〒759-6595 下関市永田本町2-7-1
電 話：083-286-5114
e-mail：nfulib@fish-u.ac.jp
http://www.fish-u.ac.jp/
●開催期間：10月1日（木）～12月22日（火）
●開館時間：9時～17時
●休館日：土・日・祝日（土曜日は学内者のみ利用可）
※10月10日（土）は臨時開館



観覧風景



観覧風景



梅光学院大学 図書館

『梅光 ML 「神と人をつなぐ」～聖書の世界～』

【展示内容】

「光の子として歩みなさい」（新約聖書 エフェソの信徒への手紙 5章8節）をスクールモットーとする梅光学院大学は、1872年からの長い伝統を持つミッションスクールです。本学ならではの珍しい聖書や、美しい聖書を中心にキリスト教関連の蔵書を展示しました。

【主な展示品】

- ・『ケルズの書』復刻版（『The Book of Kells: Fine art facsimile edition』）
- ・『死海写本』原色原形復元（『The Dead Sea scrolls』）

【観覧者数】

81名

【関連事業】

なし

【成果】

珍しい聖書や美しい聖書を展示し、聖書の書誌学的な解説だけでなく、本学宗教主任による聖書箇所からのメッセージを展示することで、ミッション校ならではの特徴を出す展示ができました。観覧者アンケートの中に「聖書のメッセージに親しみを持った」という回答もありました。ML 連携展示を観覧するため、初めて本学図書館を訪れた方もおり、周知が進んでいるように感じました。また、地元ラジオ局（カモン FM）の取材を受け、ラジオで広報できたことも成果の一つです。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

集客を増やすような魅力的な展示内容になるようにしたいですが、時間と労力を割くのが大変です。

今後、本学の学びと繋がるような展示を心がけたいと思います。

住 所：750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1
電 話：083-227-1040
e-mail：library @baiko.ac.jp
<http://www.baiko.ac.jp/university/library/>
●開催期間：11月16日（月）～1月30日（土）
●開館時間：9時～17時
●休館日：日曜・祝日
12月27日～1月4日



観覧風景



観覧風景



梅光学院大学 博物館

『梅光 ML「神と人をつなぐ」 ～没後40年・藤山一雄の『イエスの世界』～』

【展示内容】

梅光学院大正期の教諭・藤山一雄が1929年聖地巡礼の際に描いたとされる風景、人物の絵画、スケッチ700葉のうちの約7点の原画を展示しました。戦後、旧満洲引揚後、絵本聖書の挿絵も手掛けるなど、最晩年83歳の藤山が、平和への渾身の祈りを込めて執筆した美術紀行・随筆本『イエスの世界』をご紹介します。

【主な展示品】

- ・藤山一雄画「聖地鳥瞰図」（新基督教青年会版）1945年以前 紙本水彩
- ・藤山一雄著『イエスの世界』の挿絵原画「聖パレンスタイン風物・テベリアの町」1929年 紙本水彩

【観覧者数】

210名

【関連事業】

なし

【成果】

今年度の本学ML連携は「神と人をつなぐ」を共通テーマに取り組んだ初企画事業として臨みました。博物館はML展3度目の紹介となる藤山一雄資料群から、聖書を傍らに生涯を過ごした藤山自身の視点を展示化しました。出展数を追加するⅡ期展は都合中止、展示アンケートではキャプション不足の指摘を受ける等、企画立案時での課題を残しました。スタンプラリーは博物館学見学授業の一環に位置づけ、2～4年生の全受講生に対し、ML連携参加4館以上の見学を促しました。特に他大学4館には団体見学と丁寧な解説をいただき、学生からは「つなぐ」の捉え方とその展示公開のかたちに、大いに触発を受けたとの感想が寄せられました。他県にはない稀有な連携事業を本学生の教育の中で体感させるきっかけにできたことは有意義だったと思います。また、2週連続で地元ラジオ局の取材を受け、後半期 ML 展の広報につながりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

今年から遠隔地のポイントが増量。多くの方々に会期終盤までスタンプラリーのご参加を願いたいので、1月末の終盤までご見学いただけるよう、ワクワクするような工夫を凝らすことができたらと思います。

住 所：750-8511 山口県下関市向洋町 1-1-1
電 話：083-227-1070
e-mail：museum @baiko.ac.jp
<http://www.baiko.ac.jp/university/museum/>
●開催期間：11月16日（月）～1月30日（土）
●開館時間：9時～17時
●休館日：日・水・祝日・12月29日～1月4日
※12月2日・1月6日は臨時開館



展示の全景



観覧風景



宇部フロンティア大学 短期大学部図書館 『つなぐ～産学協同開発 「お野菜ぎゅーっと弁当」』

【展示内容】

本学食物栄養学科では産学連携事業の一環として、平成 25 年度から、俵丸久さんと「お野菜ぎゅーっと弁当」を協同開発しています。中食のお弁当に野菜を増やすことを目的に、栄養士をめざす学生と共に取り組んできました。第 1 弾から第 8 弾まで 8 個のお弁当を考案し、平成 26 年度に販売した第 6 弾のお弁当が「ファベックス惣菜・弁当グランプリ 2015」で金賞に選ばれました。この活動内容と関連資料を展示しました。

【主な展示品】

- ・歴代「お野菜ぎゅーっと弁当」についての解説パネルと関連図書
- ・食物栄養学科 産官学連携事業についての紹介パネル

【観覧者数】

267 名

【関連事業】

- ・大学祭開館時における一般市民を対象とした絵本のよみきかせ

【成果】

本学食物栄養学科が産学連携事業の一環として（株）丸久さんと取り組んでいる「お野菜ぎゅーっと弁当」協同開発の活動内容を紹介しました。

ゼミ活動として取り組んできた開発の過程や、商品化された 10 点の考案弁当の写真と内容、野菜摂取の目安等について、たくさんの方に興味を持っていただき、楽しく観覧していただくことができました。

また、この活動経験が、栄養士として働く卒業生の現在の仕事において、栄養面や健康面のみならず原価や調理の作業効率等、様々な観点からメニューを考案していく上で、大変役に立っているということが分かりました。本展示で過去の活動内容や卒業生のコメントを紹介したことは、栄養学を学ぶ在校生の意欲向上の一助となりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

展示の企画段階から在校生にも参加を求め、短大あるいは学園全体で ML 展をもちあげるような体制づくりを考えていきたいと思ひます。

住 所：〒755-8550 宇部市文京町 5-40
電 話：0836-35-9511（総務課）
e-mail：soumu@ube-c.ac.jp
<http://www.ube-c.ac.jp/index.html>
●開催期間：10月1日（木）～12月25日（金）
●開館時間：9時～18時
●休館日：土・日・祝日・月末整理日
※11月15日（日）は臨時開館



展示の模様



展示の模様



宇部フロンティア大学 附属図書館 『看護・福祉・心理の エキスパートと「わが街」をつなぐ』

【展示内容】

宇部フロンティア大学のファカルティは看護・福祉・心理の専門家集団です。当館では、大学におけるこれらの分野の知識や経験が地域社会とどのようなつながりを持っているのかをご紹介します。

具体的には、本学に係る文京クリニック、発達障害相談センター「そらいろ」、地域連携センター等の活動内容を図書館内に展示しました。

【主な展示品】

- ・「文京クリニック」「発達障害発達センターそらいろ」の活動報告

【観覧者数】

55 名（確認できた方のみのカウント）

【関連事業】

- ・大学祭の図書館開館

【成果】

本学の教員が実施している地域支援と、その関連施設の活動を詳しい写真と利用方法を一緒に展示することで、学内外にアピールすることができました。その活動が心理・福祉・医療が連携して行っていること、学問的な裏づけがあること、大学での学びや研究と結びつくことを、書籍と一緒に展示することで理解をふかめていただきました。また、書籍の表紙見せ展示をしたことで、展示資料の閲覧数が増加しました。

一般の来館者からは、前年度の展示物との比較をして感想をいただいたりしたこと、リピーターの方がおられるのが分かりました。他館を訪問した学生からは、訪問者同士で読書会等を企画して自主的な交流をするようになったと聞いています。つなぐというテーマに沿ったエピソードに感じました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

さらに分かりやすい展示やテーマを取り入れ、学生が力を発揮しやすいスケジュールや運営を心がけたいと思ひます。

展示終了期間間際の来館も多かったため、展示期間を検討する予定です。

住 所：〒755-0805 宇部市文京台 2-1-1
電 話：0836-38-0524
e-mail：tosh@frontier-u.jp
<http://www.frontier-u.jp/index.php/a-library>
●開催期間：10月1日（木）～12月25日（金）
●開館時間：8時30分～17時15分
●休館日：土・日・祝日
※10月24日（土）・25日（日）は臨時開館



展示の模様



展示の模様



山口東京理科大学 図書館

『地域とつなぐ』

【展示内容】

山口東京理科大学では「地域産業界で活躍する人材育成」をスローガンに掲げ、また平成28年4月からの公立化に向け、地域との連携を深めています。産業界とは3Dプリンター等の機器センター装置の一般開放、講習会の開催を、小中学生対象として「ほんものの科学」と題して出張講義を行っています。また山陽小野田中央図書館とは「サイエンスカフェ」の開催、書籍の相互利用等で連携しています。これら活動状況を紹介しました。

【主な展示品】

- ・3Dプリンター「da Vinci 1.0 AiO」XYZ Printing 社製

【観覧者数】

15名

【関連事業】

なし

【成果】

平成28年4月からの公立化に向け、地域との連携事業を紹介しました。市民向けの3Dプリンター使用説明会を開催したことに関連し、小型の3Dプリンターを館内に展示・稼働いたしました。学外からの来館者だけでなく、学科や分野を越えて興味を持つ本学学生が増えたことが成果であると思います。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

関連事業の企画を見据えたテーマ選びが必要であると感じました。

住 所：〒756-0884 山陽小野田市大学通 1-1-1
電 話：0836-88-4512
e-mail：ylib@admin.tus.ac.jp
http://www.yamatus.ac.jp/laboratory/library/
●開催期間：11月2日(月)～12月24日(木)
●開館時間：月～金 9時～20時
土 9時30分～17時
●休館日：日曜日・祝日



展示の様様



観覧風景



山口大学 医学部図書館

『「時」を学ぶ～医学と時間～』

【展示内容】

医学部では医師・看護師などの医療人を育てるだけではなく、生命科学分野の最先端の研究に挑戦しています。今回は「時間」をテーマに研究に関連資料とともに紹介しました。また、最新の研究は先人たちの努力があってこそ。時代を少しさかのぼって江戸時代の医学はどのようなものだったのか、資料もあわせて展示しました。

【主な展示品】

- ・尼氏医鑑 (にしいかん) (浅山文庫)
- ・福田正二訳述、巻一～三、刊本、半紙本、明治8(1875)年刊
- ・複草紙 (やまいのそうし) (複製)
- ・第17回日本医学会総会複製、昭和42(1967)年

【観覧者数】

不明

【関連事業】

- ・ワークショップ「日時計をつくろう」参加者6名
- ・展示説明 参加者6名
- 11月1日(日)13時30分～16時30分

【成果】

本学の時間学研究所の最新の研究を紹介しました。また、パネルにて江戸時代から明治初期の山口県の医学史を紹介し、当館所蔵の古医書を展示しました。

本学学生が学習の合間に見ていました。一般の方にも図書館(大学、医学部)を知ってもらう良い機会となりました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

学内外への広報について、大学祭のパフレットに記事を掲載して周知すれば良かったと思います。宇部市の広報課にスタンプラリーカード、ポスター等を預けましたが、効果のほどは良く分かりませんでした。

大学の広報も兼ねて近隣の中学校・高校へポスター等を送付してみるのも方法の一つと感じました。

住 所：〒753-8505 宇部市南小串1丁目1-1
電 話：0836-22-2143
e-mail：medlibsa@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/
●開催期間：11月1日(日)～1月29日(金)
●開館時間：月～金：8時30分～19時15分
土・祝日：13時15分～16時45分
●休館日：11月21・22日、12月26・27日ほか



展示説明風景



ワークショップ風景



山口大学 工学部図書館

『「時」を学ぶ～工学と時間～』

【展示内容】

山口大学は、2015年に創基200周年を迎えました。今回の展示では、脈々とその歴史を刻み、つなぎ、伝えてきた「時間」そのものに注目し、『工学と時間』と題して、「時間」に関連する工学部教員の研究成果や、関連する資料を展示しました。その他、当館所蔵資料のうち最も古い1878年発行の雑誌等、「時」の流れを感じることのできる資料も公開しました。

【主な展示品】

- ・時間学研究所紹介パネル
- ・工学部教員（時間学研究所所属）の研究紹介パネル
- ・雑誌“Journal of the American Chemical Society”の1878年発行の5冊

【観覧者数】

不明

【関連事業】

- ・日時づくりワークショップ 参加者7名
11月14日（土）13時～16時

【成果】

「時間」をテーマに据え、本学の特長的な研究の一つである「時間学」について、時間学研究所の協力を仰ぎながら紹介パネルを作成しました。学内他部局と連携し、本学の特色を踏まえた展示を行えたことは大きな成果だと言えます。また、時間学研究所にとっても、学内外にその研究内容を周知する機会として効果があったと思います。なお、関連資料として、工学部の学部案内や、『工学部研究紹介冊子』を配置することで、工学部についても紹介することができました。『工学部研究紹介冊子』は、印象に残った展示物としてアンケートに挙がっており、来場者に対して工学部の研究成果を知ってもらおうことができました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

ワークショップの準備に多くの時間を割きましたが、準備に対して参加者が少なかったです。次年度はより効果的な広報を行いたいと思います。

住 所：〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16番1号
電 話：0836-85-9051
e-mail：infoserv@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/
●開催期間：11月1日（日）～1月29日（金）
●開館時間：月～金：8時30分～21時45分
 土日・祝日：11時15分～18時45分
●休館日：年末年始



展示の様様



観覧風景



山口大学 総合図書館

『「時」を学ぶ～学問と時間～』

【展示内容】

山口大学は、2015年に創基200周年を迎えました。今回の展示では、脈々とその歴史を刻み、つなぎ、伝えてきた「時間」そのものに注目しました。総合図書館では、文理の垣根を超えた様々な資料をもとに「時間」を探りました。

【主な展示品】

- ・本学時間学研究所の研究紹介パネル及び時間学関連書籍
- ・「江戸時代 庶民の時間」の解説パネル及び『伊勢暦』など暦関連資料

【観覧者数】

不明

【関連事業】

- ・ワークショップ「日時をつくろう」：11月1日（日）参加者33名
- ・ミュージアムトーク「アートと時間生物学」：11月7日（土）参加者31名

【成果】

「時間」をテーマに据え、本学の特長的な研究の一つである「時間学」について、時間学研究所の協力を仰ぎながら紹介パネルを作成しました。学内他部局と連携し、本学の特色を踏まえた展示を行えたことは大きな成果だと言えます。また、時間学研究所にとっても、学内外にその研究内容を周知する機会として効果があったと思います。

今回、関連資料展示として、時間学研究所及び当館所蔵の暦に関連する資料展示を行ないました。時間学研究所所蔵の暦類は、今回の展示をきっかけにその存在が公になり、また、当館所蔵「林家文書」所収の文書2点については、「時間」という新たな観点から資料を捉えなおすことができた上で意義があったと思います。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

ワークショップは学園祭と同日に開催したが、ミュージアムトークをその翌週に行ったため、広報及び集客の面で課題となりました。また、ワークショップ及びミュージアムトークが単独であることで、それぞれ独立したイベントのようになり、ML連携展示本体との関連性が分かりづらかったため、次年度は、ワークショップとミュージアムトークを同日に行い、さらに展示本体との関連性を持たせた形で実施したいと思います。

住 所：〒753-8511 山口市吉田1677-1
電 話：083-933-5183
e-mail：toshokan@yamaguchi-u.ac.jp
http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp
●開催期間：11月1日（日）～1月29日（金）
●開館時間：月～金：8時30分～21時45分
 土日・祝日：11時45分～18時45分
●休館日：12月29日～1月3日



観覧風景



ワークショップ風景



山口大学 埋蔵文化財資料館

『「時」を学ぶ ～時は流れる・モノは変わる～』

【展示内容】

考古学では、「時間の推移」は主として「土の堆積」と「モノの変化」という視点で研究が行われます。今回は「モノの変化」に着目し、展示を行いました。

時の流れは、形や素材の変化として考古資料に現れます。誰でも気づく大きな変化、よく観察しないと気づかない小さな変化。変化しにくいモノと変化しやすいモノ。本学キャンパスから出土した実物資料を数多く用いて、変化の推移と変化の理由を考察する展示を行いました。

【主な展示品】

- ・縄文時代から室町時代にかけての煮炊きの道具
- ・古墳時代から古代にかけての土器（坏・高坏）

【観覧者数】

290 名

【関連事業】

- ・11月1日(日)14時～17時「木簡ワークショップ」参加者 40 名
- ・11月7日(土)11時～12時 ミュージアムトーク 参加者 19 名

【成果】

土器の種類を限定し、モノの変化を通史的に可視化することにより、現在につながる調理器や食器の形態・用法の変化を追いました。

アンケートによると「解説文がわかりやすく面白かった。展示とあわせてより楽しめた」「土器の変化の理由や利用方法が詳しく解説されていて面白かった」「キャプションが読みやすかった」「土師器や須恵器などの器の歴史がわかってよかった」など概ね好意的な意見が多かったですが、例年に比べ入館者が伸びませんでした。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

今年度より山口学芸大学・山口芸術短期大学図書館が参加し、山口市内でもスタンプラリー 4 館達成が可能となりましたが、当館では達成者が出ませんでした。学芸員課程授業で学生にも紹介しましたが、反応が薄かったように感じます。来年度は、地域（山口市内）広報とともに学内広報を強化したいと思います。

住 所：〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電 話：083-933-5035
e-mail：yuam@yamaguchi-u.ac.jp
<http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/Shiryokan.home/>
●開催期間：11月1日(日)～1月29日(金)
●開館時間：9時～17時
●休館日：土・日・祝日・12月28日～1月4日
11月1日(日)・7日(土)は臨時開館



ミュージアムトーク風景



ワークショップ風景



山口学芸大学 山口芸術短期大学 図書館

『郷土と芸術をつなぐ』

【展示内容】

山口学芸大学・山口芸術短期大学では、吉田松陰の言葉「至誠」を教育理念としています。郷土と芸術、芸術と教育の繋がりを重視しており、昭和 55 年には自主創作作品「組曲《吉田松陰》」の公演を行いました。今回の展示では、その翌年に行われた東京公演のレコード・ジャケットやパンフレットを展示しました。また、10月17日の定期演奏会では 35 年ぶりに「組曲《吉田松陰》」を再演いたしました。

【主な展示品】

- ・「自主創作 組曲『吉田松陰』」LP 盤ジャケット（録音：1981 年 虎の門ホール）1 点
- ・「自主創作 組曲『吉田松陰』」台本（1980 年版／2015 年版）各 1 点
- ・「吉田松陰遺墨帖」 1 冊

【観覧者数】

23 名

【関連事業】

- ・会期中の大学祭において、昭和 55 年の山口市民会館での定期演奏会の映像と、昭和 56 年の虎の門ホールでの演奏音源を上映

【成果】

通常は外部に公開していないため、外部の方々や他大学の学生に来館していただく機会となりました。

また、学内の学生にとっても、書庫に保管されているため通常目にしない資料や、他学科の研究成果を知る機会になったようです。

反省点としては、まず、広報が不十分であったため、学生の参加が少なかったことが挙げられます。次に、展示物の少なさと、展示についての説明不足の指摘を来館者より受けました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

学内広報に力を入れ、学生の参加を促すことや、学内教職員の連携を図ることが必要と感じます。また、展示に対する説明をより詳細に記した目録等の作成や展示記録の作成にも取り組みたいと思います。

住 所：〒754-0032 山口県小郡みらい町1丁目7番1号
電 話：083-972-3288
e-mail：akiyama@yamaguchi-jca.ac.jp
<http://www.yamaguchi-jca.ac.jp/library/>
●開催期間：10月1日(木)～11月30日(月)
●開館時間：8時30分～18時30分
●休館日：土・日・祝日
※11月21日(土)・22日(日)は臨時開館



展示の模様



スタンプラリー参加者



山口県立大学 附属図書館

『古典芸能へつなぐ 桜園寺内文庫収蔵品』

【展示内容】

桜園寺内文庫には刊本、古典籍、文書類のほかに、文物も収蔵されています。本来は本学の他の施設で保管されるものですが、スペースの関係もあり、文庫に置かれています。山口市仁保出身の小説家、嘉村磯多の使っていた机や本棚もそうしたものです。今回の展示では文庫内に保管されている能面2点を展示しました。

【主な展示品】

・能面「小面」「般若」

【観覧者数】

不明

【関連事業】

なし

【成果】

本年度は、当館が参加して3年目に当たるので、これまでに展示したものを加えて5種類の収蔵品を展示しました。

今回の展示品は能面2面で、本学ゆかりの教員が退職時に預けられたものと思われていますが、由緒ははっきりしていません。また、いずれも昭和初期の作です。作者は異なっており、一人は佐渡在住だったようで、伝来の謎が深まります。更なる文庫内の調査により新たな文物が発見できそうな期待が生まれました。

少数ではありましたが、来館者の話を聞くことができ、おおむね好評でした。他大学の学生からは、当館各コーナーや書架についての質問を受け、図書館見学も併せて行った感があり、面白い成果となりました。本学の国文学関係の学生にとっても、能面が当館にあることが驚きだったようです。

【来年度山口県立大学 ML 連携事業に向けて】

学内、地域への当館の広報の仕方に工夫が必要と思います。

住 所：〒753-8502 山口市桜島 3-2-1
電 話：083-928-0522
e-mail：lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp
http://www.yamaguchi-pu.ac.jp/library/ypulib/index.html
●開催期間：11月2日(月)～1月29日(金)
●開館時間：9時～19時
●休館日：土・日・月末・年末年始



観覧風景



展示の様様



至誠館大学 附属図書館

『産学官でつむぐ日韓の友情』

【展示内容】

日韓両国初とされる萩市と蔚山(広域)市間の姉妹都市提携が1968年10月に結ばれて以来、両市間の相互交流をはじめ、萩焼やお茶等、産業・文化面での交流が活発に行われてきました。また、大学間交流では、本学前身の萩国際大学時代、2001年2月に蔚山大学校と、2002年6月に漢城大学校との学術交流協定調印以来、交換留学生、短期語学留学生相互派遣などの相互交流を重ね、友好を深めてきました。

本館では、韓国と萩市間の産学官でつむいだきた友情の足跡を紹介すると共に、さらに深い友好のきずなをつむぐ契機としたいと考えました。

【主な展示品】

- ・大学間の学術交流協定と交流
- ・萩市と蔚山広域市の交流
- ・萩焼・茶道等、産業や文化面の交流

【観覧者数】

約60名

【関連事業】

- ・11月1日(日) 大学祭において展示解説：参加者22名

【成果】

今年度は大学での取り組みのほかに、萩市役所や萩市民の地域活動も併せて展示しました。学外の方々にもご協力いただくことにより、大学で取り組んでいることをより広い範囲に広めていくことができたと思われます。大学と地域の繋がりを再認識する、良い機会となりました。

【来年度山口県立大学 ML 連携事業に向けて】

展示内容を決める段階から展示物の準備まで、すべてを思うように進めていくことができませんでした。次年度は共通テーマが決まった段階で、展示内容の決定から、準備までスムーズに取りかかれればと思います。

住 所：〒758-8585 萩市椿東浦田 5000
電 話：0838-24-4081
e-mail：library@shiseikan.ac.jp
http://www.shiseikan.ac.jp/library
●開催期間：10月12日(月)～12月18日(金)
●開館時間：8時45分～17時30分
●休館日：土・日・祝日
※11月1日(日)は大学祭のため臨時開館



観覧風景



展示解説風景



岩国短期大学 附属図書館

『次世代につなぐ ～日本文学の絵本展』

【展示内容】

絵本は、保育の中で、子どもの心を育むものとして大きな位置を占めています。
今年度は、絵本展のテーマとして語り継いでいきたい日本文学の作品を取り上げ、平成 27 年 2 月に逝去された松谷みよ子さんの作品を中心に展示しました。
合わせて、絵本を題材にした授業の紹介や学習成果の展示も行いました。

【主な展示品】

- ・松谷みよ子の作品～絵本、民話、紙芝居
- ・日本文学のしかけ絵本
- ・学生の作品～手作り絵本・私の心の一冊表紙作り

【観覧者数】

約 105 名

【関連事業】

- ・「松谷みよ子さんの天国ポスト」
会期中、幼児教育科 1 年生の授業の一環として、松谷みよ子作品に触れてその感想等を手紙に書くという試みを実施しました。
- ・「学生（図書委員）による絵本の読み聞かせや紙芝居」
11 月 16 日（日）午後 1 回（約 30 分）

【成果】

本館にはいろんなジャンルの松谷みよ子作品が比較的多くそろっており、それらの展示をすることで、来館者に松谷みよ子さんの仕事の全体像や作品の魅力に触れていただくことができました。また、授業との連携で、学生が松谷みよ子作品に親しみ、その作品をより深く理解することにつながりました。

その他日本文学のしかけ絵本や手づくり絵本等の学生の作品を展示することにより、来館者に絵本の魅力を多面的にアピールすることができました。

【来年度山口県大学 ML 連携事業に向けて】

展示品に興味をもっていただくためには、主要な展示品に解説をつけるなど、その作品を生かす展示の工夫が必要となります。今回は、展示品自体の質は高かったと思いますが、それを生かす工夫が足りませんでした。しかし、そのためには、テーマが専門の教員や専門性の近い教員の協力を得ることが不可欠と感じます。

住 所：〒740-0032 岩国市尾津町 2 丁目 24-18
電 話：0827-31-8141（代）
e-mail：library@iwakuni.ac.jp
http://www.iwakuni.ac.jp
●開催期間：10 月 21 日（水）～ 12 月 25 日（金）
●開館時間：9 時～ 17 時
●休館日：土・日・祝日
※11 月 15 日（日）は大学祭のため臨時開館



展示の様様



「学生によるおはなし会」の様様

事務局各会場視察風景



自館の視察は行わないことから、スタンプラリー全館達成ならず…

Muse & Kin



山口県大学 ML (Museum・Library) 連携事業報告

平成 27 年度 展示テーマ『つなぐ』

山口県大学 ML 連携事業 web <http://www.oai.yamaguchi-u.ac.jp/ml/>

【編集】

山口県大学 ML 連携事業事務局
(情報環境部学術情報基盤整備室内)
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電話 083-933-5192
e-mail li322@yamaguchi-u.ac.jp

【発行】

山口大学埋蔵文化財資料館
〒753-8511 山口市吉田 1677-1
電話 083-933-5035
e-mail yuam@yamaguchi-u.ac.jp
web <http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp/> 2016.3.31